

22nd Annual Congress of the European College of Sport Science (ECSS Metropolis Ruhr 2017)における研究発表

中塚 英弥*

はじめに

今回、平成29年7月5日～平成29年7月8日の日程で、ドイツのエッセンにて開催された22nd Annual Congress of the European College of Sport Science（第22回ヨーロッパスポーツ科学学会：以下、ECSS）に参加し、これまで我々が行ってきた研究成果の一部を発表する機会を頂いたので、学会大会の様子および私の発表内容についてここに報告する。

ECSS (European College of Sport Science) について

ECSSは体力・スポーツ科学分野の国際協力を推進するとともに研究者間の交流を目的とした国際組織である。当学会の年に1度の学会大会には、ヨーロッパを中心とした学会であるにも関わらず、アメリカ、アジア、オセアニアなど世界中から体力・スポーツ科学領域の研究者が集まり、研究成果の発表および討論が盛んに行われている。今回参加した学会会場においてもスポーツ科学を研究領域とする研究者や学生をはじめ、運動

指導および実践者等の参加者で非常に盛況であった。一般発表では、様々な領域の研究発表が行われ、研究者間の質疑応答も活発に行われていた。いずれの分野の内容も非常に興味深く、今後の研究において有益なものであると感じた。

研究発表について

学会大会2日目のMini oral session（発表3分間・質疑応答2分間）にて「Factors that improve the endurance running performance in elementary school boys in Japan」というタイトルで発表した。その内容は、小学生児童における長距離走パフォーマンスの発達の様相について有酸素性能力の観点から発育の影響を考慮して検討したものである。発表に関しては事前にしっかりとリスニングの勉強を行っていたが、質疑応答に関して初めての国際学会ということもあり、緊張で上手く聞き取れず、明快な回答をすることができなかった。しかし、セッション後に質問していただいた先生に回答をお伝えすることができ、意見を頂くことができた。また、現場での応用についても意見を頂くことができた。今後の研究の参考とすることができた。

おわりに

今回の発表を通して、自身の研究データの有用性を再確認することができ、非常に有意義な時間を過ごすことができた。また、初めての国際学会への参加ということもあり、非常に緊張した中での発表となったが、私自身の現在の英語力を知ることができ、更なる向上が必要であると感じた。



演題発表の様子

* 鹿屋体育大学大学院体育学研究科博士後期課程3年

今後も積極的に国際学会に参加し、自身の研究内容を深めるとともに、語学力についても海外の研究者とより深くディスカッションできるようにしていきたいと考えている。最後に本学会大会への参加・発表にご理解とご支援いただいたことに、感謝の意を表します。